### [PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 過疎計画掲載

事 業 名	社会教育委員	会議運営事業	ŧ		事業期間	昭和	40年度 ~ -	- 年度					•	<u>'                                     </u>
事業性質区分	新規・継続	新規(掲載)	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	3-1-1	他に関連する 基本事業						所管課係	社会教育課社会教育係
目的 (何のために実施するのか)	社会教育に関し教意見を反映させ、	教育委員会に助言 社会教育に関す	を行う社会教育委 る諸計画・事業の	員の会議を円滑 充実を図る。	- こ運営することによ	り、社会教育	行政の広く地域の	手段 (どのような方法で 実現するのか)	年間を通して定期定の活動について	期的に開催する定 て企画・検討する	例会とこれにあれ 特別委員会を随時	)せた専門部会、』 宇実施する。	必要に応じて開催す	する臨時会を実施する。また、特
対象 (誰・何を対象として いるのか)	社会教育委員							成果 (どのような効果が 得られるのか)	社会教育委員の意育事業の推進に	意見を反映させた つながる。	社会教育計画を策	定することにより	り、行政と地域住身	民が密接に連携・協働した社会教
事業開始時の状況 緯	・これまでの経	社会教育委員は、く。	定数を15人以内、	任期は2年とし	<b>,、学校教育関係者</b>	や社会教育関係	系者、家庭教育の向	月上に資する活動を	行う方、学識経験	ტのある方に委嘱	されている。また	、社会教育委員の	)会議には互選に。	くり委員長及び副委員長各1名を置

## [DO]

実績

					第1次実施	3 カ年計画			第2次実施	3 カ年計画			第	3次実施4カ年計	-画		第 7 期
				第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画
				(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	
	国	費					0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
		-11	実績額				0				0					0	0
	道	費					0				0					0	0
		_	予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	地 方	債					0				0					0	0
投		_	予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
入	その	他					0				0					0	0
ż		-	予算計上額				0				0					0	0
-			実績額				0	200 000			0					0	0
れ	一 般!	財源		613, 000				626, 000	626, 000	626, 000	1, 878, 000	626, 000	626, 000	626, 000	626, 000	2, 504, 000	6, 221, 000
_		-	予算計上額	613, 000		540, 000	1, 639, 000	626, 000	653, 000		1, 279, 000					0	2, 918, 000
た			実績額	342, 359		359, 723	1, 041, 561	352, 380			352, 380					0	1, 393, 941
事	事 業 費	合計		613, 000		613, 000	1, 839, 000	626, 000	626, 000	626, 000	1, 878, 000	626, 000	626, 000	626, 000	626, 000	2, 504, 000	6, 221, 000
		-	予算計上額	613, 000		540, 000	1, 639, 000	626, 000	653, 000	0	1, 279, 000	0	0	0	0	0	2, 918, 000
業			実 績 額	342, 359		359, 723	1, 041, 561	352, 380	()	0	352, 380	0	0	0	0	0	1, 393, 941
費				安貝和師 310十 円	委員報酬 316千 円	安貝和師 340十 円		円	委員報酬 340千円 費用弁償 203千円								
,,,	事業費う	予算の		費用弁償 187千	費用弁償 60千円	費用弁償 82千円		費用弁償 176千	消耗品費 35千円								
の	内容			円 消耗品費 35千円	月耗品質 35十円 負担金 75千円	消耗品費 43千円 負担金 75千円		円 消耗品費 35千	負担金 75千円								
144				負担金 75千円				円									
推					研修会開催予定	報酬支払い対象表徴を		負担金 75千円 研修会開催地が	研修会開催地の								
移				地決定による費		想定したことによる委員報酬の増		遠隔地となった	変更による費用								
	前年度予の比			用弁償の増	用弁償の減	会議出席交通費支払い		ことによる費用 弁償の増	弁償の増								
	(増減理					額増及び研修会参加者 増による費用弁償の増		研修会参加者減									
	(-0,0%	<b>-</b>						による消耗品費									
				コロナ禍による	コロナ禍により研	完例会議を度によ		の減 定例会議欠席に									
		4.		研修会由 正笙に	修全等の宝施方法	る季昌報酬の減		よる委員報酬の									
	実績との (増減理			よる費用弁償の	が変更(オンライン)	や、研修会等の欠 席による費用弁償		減や、研修会等 の欠席による費									
	(坦/火车	±Ш/		減など	る費用弁償の減な	及び消耗品費の減		用弁償及び消耗									
					Ľ	<u> </u>		品費の減									

78.6	# 02 1E-1	₽ . B±1M	•														
活重	助指標 1	(「手段	殳」をもとに設定)	指標名:会議出席	<b>常率</b>		指標の求め方:会	議の延べ出席委	員数/会議回数×	社会教育委員数							
成县	<b>具指標</b> 1	l (「成界	具」をもとに設定)	指標名:社会教育	育委員の意見聴取	率	指標の求め方:社	L会教育委実施計	画評価アンケート	提出件数/社会教	7育委員数						
					第1次実施	53カ年計画 1000円			第2次実施	3 カ年計画			第	3次実施4カ年記	計画		第 7 期
				第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画
				(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
		活動指		90				90	90	90	)	90	90	90	90		
	指標	(単位	入機能	88	1			78									
	惊	成果指 (単位	/	60		<b></b>		70 79	70	70		80	80	80	80		
			(7%) 実績値 (達成度	67	73	/3		79									
			達成度 指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の					上がっている										
		(成果排	指標をもとに評価)				エからている										
			効率性 貴に対する成果)				少し上がっている										
		総合評	• ш	自己分析:	自己分析:	自己分析:	良好である 判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
				活動指標は目標	活動指標は計画	活動指標は計画	活動指標は計画値	会議の出席率は	ロレカが!:	ロレカが	刊例任由:	<b>ロレカが</b> :	ロレカが!	ㅁㄴ기제 :	ロレカ4川:	77例生日:	
						値を下回り、成 果指標は昨年度		前年度より減少									
					指標は昨年度よ		計画値を上回っ	画値に達しな									
					り上回ってい	あった。 委員の多忙化に	た。 社会教育委員会議	かったが、実施									
						より出席率が低	く 未日一人ひと										
事				業の推進を図る	だけはなく、委	下したことが原	りから地球住氏の	12000000000000000000000000000000000000									
	評				員一人ひとりか ら地域住民の一		一人として感じた ことを評価として	氏の一人として 日頃の活動を诵									
務	一個内			ることから、継	人として感じた	社会教育委員会	いただいたことに より、より広く地	して感じている									
	容		総合評価の判断														
事			理由または指標	2.2% 0.0%	とにより、より	ている事につい	せた社会教育実践方針や社会教育実	くことで、広く									
7			の実績値に関する自己分析		広く地域の意見を反映させた社	て意見を述べて	吸の息気を及映された。 せた社会教育実践 方針や社会教策定に 一定の成果があっ	地域の意見を反 映させた社会教									
4114			9 E C 77 41		ムシンロン	C ( ) M ( - D - N - )	15.0	11 11 W 42 IE W C									
業					や社会教育実施計画等の等定に	意見を反映させた社会教育行政	効率性について は、研修会にオン	図ることができ た									
					生かされてい	の推進を図る重	は、研修芸にオン ラインで参加する	/_ 0									
評					る。	要な会議体であ	ことにより費用弁 償の支出が抑えら										
						中いチのかにに	カ 経費の縮減が										
価						努め安定的な運	凶られにことを蹈										
						営を維持する必 要がある。	「皮灯じめる」と										
							判断した。										
		会後の					現状のまま継続										
		フ皮の	기메도	R5 :			ガルジょみ軽航	R8 ·				R10 :				<u> </u>	
				委員の欠員等に。		席委員数が減少し						N10 .					
						を開催することに											
				美施計画評価アン 人として感じた。	フケートを美施し ことを評価として	委員一人ひとりか いただいている。	ら地域住民の一										
				より広く地域の意	意見を反映させた	社会教育事業の推											
		性の判断		かせない里妛な1  る。	工組みじめること	から、「現状のま	よ桃枕」とす										
		、改革 <i>0</i> 、R8、R				け、学校教育関係	者をはじめとし										
				た安貝構成の見	直しを検討する必	安かめる。											

### [PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 ×

事 業 名	オアシス通信	発行事業			事業期間	平成	8年度 ~ -	- 年度					•	<u> </u>
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	3-1-1	他に関連する 基本事業						所管課係	社会教育課社会教育係
目的 (何のために実施するのか)	市民自らが学習意する。また、オフ	意欲を高め、主体 プシス通信を通し	的に学習活動に参 て各団体と社会教	加することがで 育行政の関係を	- きるように市民に親 強化していく。	しみと関心の	持てる情報を提供	手段 (どのような方法で 実現するのか)	各保育所、幼稚 公共施設、市内:	園、小中高等学校 各企業、町内会等	の全児童、生徒、 に職員が手渡しで	老人クラブに配れ 『配布。各町内会に	ក。 ニは回覧を依頼し <sup>-</sup>	ている。
対象 (誰・何を対象として いるのか)	市民							成果 (どのような効果が 得られるのか)	生涯学習に関す会教育事業等、	る情報を広く地域 生涯学習活動に積	に周知することに 極的参加への動機	こより、地域、家原 後付けになる。	至、学校との連携?	を深め、学校行事、地域行事や社
事業開始時の状況 緯	・これまじの栓	平成23年度より3	町内会への回覧を開家庭教育サポート1 砂川高等学校全校5	と業へ配付を始&		るようになった	Έ.							

## [DO]

実績

					第1次実施	3 カ年計画			第2次実施	3 カ年計画			第	3次実施4カ年計	一		第 7 期
				第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画
				(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
	国	費					0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実 績 額				0				0					0	0
	道	費	計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実 績 額				0				0					0	0
	地	方 債	計画額				0				0					0	0
投			予算計上額				0				0					0	0
			実 績 額				0				0					0	0
入	そ	の他	計画額				0				0					0	0
<b>≥</b>			予算計上額				0				0					0	0
-			実 績 額				0				0					0	0
れ	— A	设 財 源	計画額	832, 000	832, 000	832, 000	2, 496, 000	924, 000	924, 000	924, 000	2, 772, 000	898, 000	898, 000	898, 000	898, 000	3, 592, 000	8, 860, 000
,			予算計上額	832, 000	832, 000	898, 000	2, 562, 000	924, 000	1, 030, 000		1, 954, 000					0	4, 516, 000
<i>t</i> =			実 績 額	831, 600	831, 600	897, 600	2, 560, 800	924, 000			924, 000					0	3, 484, 800
事	事 業	養合計	計画額	832, 000	832, 000	832, 000	2, 496, 000	924, 000	924, 000	924, 000	2, 772, 000	898, 000	898, 000	898, 000	898, 000	3, 592, 000	8, 860, 000
•			予算計上額	832, 000	832, 000	898, 000	2, 562, 000	924, 000	1, 030, 000	0	1, 954, 000	0	0	0	0	0	4, 516, 000
業			実 績 額	831, 600	831, 600	897, 600	2, 560, 800	924, 000	0	0	924, 000	0	0	0	0	0	3, 484, 800
費				印刷製本費 832	印刷製本費 832	印刷製本費		印刷製本費	印刷製本費								
具	車業	費予算の		千円	千円	898千円		924千円	1030千円								
の		内容															
.,,																	
推				ED AT	CT AT	TT (of left   1811)		m 44 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	TT (of left 1 1811)								
移				同額	同額	用紙値上がりに よる増		用紙値上かりに よる増	用紙値上がりに よる増								
		度予算と D比較				6.04		6 9 A	6.04								
		ル 減理由)															
	(-6	#X-1 H/															
				同額	同額	同額		同額									
	m/±	L @ 11. **		I-J BR	1-3 DX	1~1 DX		1-3 D.R									
	<b>美積</b>	との比較 減理由)															
	(-8	.,,,															
						<u> </u>											

動指標	1 (「	「手段」をもとに設定)	指標名:オアシ			指標の求め方:										
果指標	1 (「	「成果」をもとに設定)	指標名:町内会	の配布率		指標の求め方:酢	記布町内会数/町口	内会数								
				第 1 次実施	13カ年計画			第2次実施	3 力年計画			第	3次実施4力年計	十画		第 7
			第 1 年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次(5年度)	実施3カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合言合
		動指標 1 計画			·		3, 100	3, 100	3, 100		3, 000	3, 000	3, 000	3, 000		
指標	_	単位/部) 実績			3, 100		3, 100	100	100		100	100	100	100		
保		果指標 1 計画 単位/%) 実績:					100 100	100	100		100	100	100	100		
		業の達成度 活動指標をもとに評価	<u></u>			達成されている										
	事業	業の成果 は果指標をもとに評値				変わらない										
		業の効率性 事業費に対する成果)				変わらない										
	総合					良好である										
評価内容		理由または指	提供していた。 は、大きないでは、 は、大きないでは、 は、大きないでは、 は、大きないでは、 は、大きないでは、 は、大きないでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	<b>ボ校人様報託指値生提とれが配こ完かでい成計た報報を運供し、わ布と的ーやクタ提動標を運供し、わ布と的は指と達習る認報と段、情報と異と相繁を変ける。といい、このでは、といい、はい、はい、はい、はい、はい、はい、はい、はい、はい、はい、はい、はい、は</b>	ずボ校人様報活指値令砂徒始へ報をまに事ったりな提動標を和川へしののないにの度と保う場を標としているでは、ことでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	指値内家ト保ラ場を学組人係紙のた効はてら「標を会庭企育ブ面行習む、な面充。率大い、良好と達の教章、、ど情、動体校を成を にしなサ学老様報まにや行掲・図 つ変こ評あいたいなサ学を検報まにや行掲・図 つ変こ評あいるが代掲・図 の変ご評あいるが、られば、対しているでは、対しているが、対している。	ずポ校人様報活指値学域めとたた育掲紙め家一やク々提動標を校とる地事任事載面た度ト保ラび場を標も成家連めがを、のる充度、どでい成計た・を学携介会子どにサ、、どでい成計た・を学携介会子どにサ、、どでい成計た・を学携介会子どにサ、とでいる。	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
改善	性のいる。	後の方向性  判断理由 (革の内容 )、R10)	とで、生涯学習	生涯学習情報を情 に取り組むきっか ながら「現状のま	けづくりとなるこ	とから、掲載内	R8 :				R10 :					

### [PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 ×

事 業 名	学習相談事業	!			事業期間	平成	5年度 ~ -	— 年度						·
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	3-1-1	他に関連する 基本事業						所管課係	社会教育課社会教育係
目的 (何のために実施するのか)	市民自らが学習意	意欲を高め、主体	的に生涯学習を行	うことができる	環境の整備を図る。			手段 (どのような方法で 実現するのか)	地域で学習活動 に、市民の要望	を行っている人や に応じた情報提供	、グループ・サ- や人材の紹介を行	ークルの活動内容、 〒う。	各事業で活用し	た講師経歴などの情報をベース
対象 (誰・何を対象として いるのか)	市民一般							成果 (どのような効果が 得られるのか)	相談した市民が	求める学習活動に	必要な情報が得ら	られる。		
事業開始時の状況緯	・これまでの経	平成13年から「ジャ成20年から「ジャスの拡充を行	楽習の達人」に名称 学校支援地域本部事 う。	がを変更 事業」が始まり、	習指導者」の名称で グループサークル 3 年間相談実績がな	や市内企業と								<b>糸を「学習相談事業」に変更し事業</b>

## [DO]

実績

				第1次実施	3 カ年計画			第2次実施	3 カ年計画			第	3次実施4力年計	一画		第 7 期
			第 1 年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年合計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次(8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合計画合計
	国 費	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道 費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地 方 債					0				0					0	0
投		予算計上額				0				0					0	0
_		実績額				0				0					0	0
入	その他	計画額				0				0					0	0
<del></del>		予算計上額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
れ	一般財源					0				0					0	0
<i>t</i> =		予算計上額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
事	事業費合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A114-		予算計上額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
業		実績額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
費																
	事業費予算の															
の	内容															
推																
移	v - += + ·															
	前年度予算と の比較															
	(増減理由)															
	実績との比較															
	(増減理由)															

41	標の子	E199 "	計画														
Ä	動指標	[1 (	「手段」をもとに設定)	指標名:学習相	談を受けた件数		指標の求め方:1	年度中に受けた	学習相談の件数								
F.	果指標	ŧ1 (	「成果」をもとに設定)	指標名:学習支	援を受けた人の満	足度	指標の求め方:和	<b>利用者アンケート</b>	で事業目的が達成	されたと回答し	た人の割合						
Ī					第1次実施	13 力年計画			第2次実施	3 力年計画			第	3次実施4カ年	計画		第 7 期
				第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画
				(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
			動指標 1 計画		4	10		10	10	10	)	10	10	10	0 10		
	打模		単位/件) 実績			2		0									
	13	7人5	果指標 1 計画 単位/%) 宝績:					80	80	80		80	80	80	80		
	-		単位/%) 実績 業の達成度	旦 86	5 —	_		_									
		(活	<b>動指標をもとに評価</b>	i)			あまり達成されていない										
			業の成果 は果指標をもとに評価	i)			変わらない										
			業の効率性 『業費に対する成果)				変わらない										
		総合	合評価				普通である										
	事務事業评価	i I	総合評価の判理 理主たは指関 の実達値に関 る自己分析	様に受供るウの紹のらあ で至り、 を取りなに、 を新型のでは、 を新型のでは、 を新型のでは、 を新型のでは、 を新型のでは、 を新型のに た実こ。 の紹のらなった。 で至 がでで至 ができる。	支「本績ら績回成てンし実で談場を働実か実下 いつ者を応える様のとのく つる実に表表を関連すると話値の果はケて績いのでは、は、に、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	支援地部と活動では、一本額と、一本額と、一本額と、一本額と、一個の計算では、一個のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	効率性について は、事業にかか る直接的な経費 を必要とせず大	支援等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等。但是一个专家的,但是一个专家的,但是一个专家的,但是一个专家的。	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
		今往	後の方向性				現状のまま継続										
				R5: 市民や地域から	の相談内容に適合	した情報提供を行	うことにより生	R8 :				R10 :				II.	
		5.M.O	↓ 坐川 № C I田 - 古	涯学習に取り組 部において整備	むきっかけづくり する「学習支援等 がら活用するとと	となることから、 ボランティア人材	地域学校協働本 ト・団体バンク」										
	改	善、改	判断理由 (革の内容 3、R10)														

### [PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 ×

事 業 名	生涯学習市民	の集い推進事	業		事業期間	平成	[18年度 ~ -	- 年度				•		
事業性質区分	新規・継続	新規(掲載)	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	3-1-1	他に関連する 基本事業						所管課係	社会教育課社会教育係
目的 (何のために実施するのか)	体験を通した学習	<b>習の機会を提供し</b> 。	、市民の生涯学習	を推進する				手段 (どのような方法で 実現するのか)		実施内容を協議・				多種多様な生涯学習活動団体に協 する。当該事業経費については、
対象 (誰・何を対象として いるのか)	一般(市内・外間	引わず)						成果 (どのような効果が 得られるのか)	事業参加者が事業 機付けとなる。	業目的にあった事	業が実施されてい	ると評価できる事	事業を実施するこ	とにより、生涯学習に取り組む動
事業開始時の状況緯	・これまでの経	平成18年度から、	. 体験することで"	やりがい""	<b>₹しみ"を発見する</b> :	<b>場を提供する</b>	<b>対育委員の会議が特</b>	別委員会として	「生涯学習市民の	集い実行委員会」	を設置し、主催し	ている。		

## [DO]

実績

				第1次実施	3 カ年計画			第2次実施	3 カ年計画			第	3次実施4力年計	一画		第 7 期
			第 1 年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年合計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次(8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合計画合計
	国 費	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道 費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地 方 債					0				0					0	0
投		予算計上額				0				0					0	0
_		実績額				0				0					0	0
入	その他	計画額				0				0					0	0
<del></del>		予算計上額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
れ	一般財源					0				0					0	0
<i>t</i> =		予算計上額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
事	事業費合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A114-		予算計上額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
業		実績額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
費																
	事業費予算の															
の	内容															
推																
移	v - += + ·															
	前年度予算と の比較															
	(増減理由)															
	実績との比較															
	(増減理由)															

10	DE 47 JE 1	多・評価															
活	動指標:	Ⅰ (「手段」をもとに設定	) 打	指標名:学習体	<b>験数</b>		指標の求め方:当	全習体験ができる	コーナーの数								
成	果指標 :	┃(「成果」をもとに設定	) 排	指標名:事業目6	的の達成度		指標の求め方:参	参加者アンケート	で事業目的が達成	されたと回答した	た人の割合						
F					第1次実施	3 力年計画			第2次実施	3 力年計画			第	3次実施4カ年	計画		第 7 期
				第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画
				(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
		7 H 200 7 H 100	画値	20		20		20	20	20		20	20	20	20		
	指標		績値 画値	100	— 100	19 100		19 100	100	100		100	100	100	100		
	124	1905K 111 DK	續値			98		99	100	100		1	100	100	100		
		事業の達成度					あまり達成されていない										
		(活動指標をもとに記事業のよ思	平価)				めより達成されていない										
		事業の成果 (成果指標をもとに記	平価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成績	₹)				変わらない										
		総合評価					普通である										
事 光 事 弟 許 佰	評価内容	理由または	第19警径を二しにか記に習行会にを立角自身	ル野庁なコしょた该な当庁会などを解自からないが一寸と各る。の会委で、しの作法の例様を設め、なでをなる指案生集及員、代しの作業のの例様を設す、はの作法ののの様をといるはいる。というないのの様をというないと 東京 はいい はいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい	きつの様き設事な指実生集及員協替謎行、イ影やる置等で構有にいて会議の作い、イ影やる置等で構有進いび会議を介き自型スに体一開中た該は習行会に行画集由可能は、1年代の一個である。の会委で代で一種のである。の会委で代で、一年のである。の会委で代で、一年のである。の会委で代で、一年のである。の会委で代で、一年の一年の「一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一	館体展すし計か成計た社実この運が動館体展すし計か成計た社実この運が動館にでス式動反のは達奏と民企、学さを防傷のは達奏と民企、受している。 しょう いっぱい はいいい しょう かんじょう いっぱい はいいい しょう かんしょう かんしょく かんしん かんしょく かんしょ かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん	標もな集工示生組く代した供がる・にいの作を推定解しているをとないます。では、行募う習っな画験機定たとないの作を許さと企体習一っに数が発の行学きと企体習一っないが発の行学さとなけよ実通の成考性で解し、と取けよ実通の成考しているときも由展でりづう施し提果えときき由展でりづう施し提果え	き使験置団得動標をた社よやも開生産の保証を強っています。 これの はいまれる はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
		今後の方向性					現状のまま継続										
	改善	性の判断理由 、改革の内容 、R8、R10)	業力 多	ナーを設置し開作 発行などにより 全画を実施した。 令和5年度から げられ、今後は:	ルス感染症の影響施 はする事業に取り 生涯学習に取り組 は新型コロ庁可情 が は新型・調節同様の けのまま継続」と	できなかったもの むきっかけづくり ルス感染症が5類 事業を実施してい	の、謎解き集の となるよう代替 感染症に引き下	R8 :				R10 :					

### [PLAN]

### 事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 ×

事 業 名	高齢者教育推	進事業			事業期間	平成	13年度 ~	— 年	F度						<u> </u>		
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外		第7期総合計画の位置付け	3-1-1	他に関連する 基本事業							所管課係	社会教育課社会教育係		
	健康維持、生きか齢者の介護予防に		化・複雑化する社	会変化への対応フ	- などに関する知識・	技能を習得す	ることにより、i	(どの	ような方法で	市老人クラブ連合会より学習ニーズを把握したうえで事業内容について内容を協議・決定し、公民館主催事業「市民大学」の中のうちの一講座として実施する。 【会場…公民館】							
対象 (誰・何を対象として いるのか)	高齢者及び市民							成果 (どの 得られ			- 目的が達成されて	いると評価できる	事業を展開するこ	ことにより、健康の	の管理、生きがいづくりや地域活		
事業開始時の状況・これまでの経 高齢者大学として高齢者に対する講演会を実施していたが、平成20年度より市民大学講演会の1回を高齢者向けの講演として実施。 緑 砂川市老人クラブ連合会と連携して平成22年度からは老人クラブ研修会終了後引き続き講演会を実施、さらには令和4年度からは研修会と合同で講演会を実施することで、多くの高齢者の参加を得ている。																	

## [DO]

実績

						第1次実施	3 カ年計画			第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					
					第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	第 7 期総合計画	
					(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計	
	国		費	計画額	35, 000	35, 000	35, 000	105, 000	43, 000	43, 000	43, 000	129, 000	43, 000	43, 000	43, 000	43, 000	172, 000	406, 000	
				予算計上額	41, 000	40, 000		_	35, 000	39, 000		74, 000					0	197, 000	
				実績額	0	54, 000		89, 000	46, 751			46, 751					0	135, 751	
	道		費	計画額	17, 000	17, 000		_	17, 000	,	17, 000		17, 000	17, 000	17, 000	17, 000	68, 000	170, 000	
				予算計上額	18, 000	17, 000		52, 000	17, 000	18, 000		35, 000					0	87, 000	
				実 績 額	0	27, 000	17, 000	44, 000	17, 637			17, 637					0	61, 637	
	地	方 '	債	計画額				0				0					0	0	
投				予算計上額				0				0					0	0	
				実 績 額				0				0					0	0	
入	そ	0	他	計画額	73, 000	73, 000			55, 000	,	55, 000	165, 000	55, 000	55, 000	55, 000	55, 000	220, 000	604, 000	
₹				予算計上額	56, 000	60, 000		174, 000	73, 000			140, 000					0	314, 000	
				実績額	0	33, 668		106, 220	59, 070			59, 070					0	165, 290	
れ	- H	般 財	源	計画額	17, 000	17, 000			27, 000	,	27, 000		27, 000	27, 000	27, 000	27, 000	108, 000	240, 000	
た				予算計上額	27, 000	25, 000		77, 000	17, 000	,		35, 000					0	112, 000	
15				実績額	0	27, 000	,	44, 000	17, 637			17, 637					0	61, 637	
事	事業	養合	計	計画額	142, 000	142, 000	142, 000	426, 000	142, 000	142, 000	142, 000	426, 000	142, 000	142, 000	142, 000	142, 000	568, 000	1, 420, 000	
				予算計上額	142, 000	142, 000	142, 000	426, 000	142, 000	142, 000	0	284, 000	0	0	0	0	0	710, 000	
業				実績額	0	141, 668	141, 552	283, 220	141, 095	0	0	141, 095	0	0	0	0	0	424, 315	
費					講師謝礼 100千	講師謝礼 100千	講師謝礼 100千		講師謝礼 100 千円	講師謝礼 100千									
	事業	費予算	ത		消耗品費 42千	7 消耗品費 42千	7 消耗品費 42千		千口 消耗品費 42千	口 消耗品費 42千									
の		内容			Ħ	円	円		円	Ħ									
推																			
7注			-		同額	同額	同額		同額	同額									
移	÷ /-	度予算	L		II-J TOK	IPJ TOK	IPJ TOR		IPJ TOK	111111111111111111111111111111111111111									
		・及ア昇 の比較	٦																
		減理由	)																
					コロナ禍による	同額	同額		同額										
	<b>宰</b> 績	との比	並		事業中止														
		減理由																	
						1			U.	1									

#### 指揮の推移・評価

ŧ	指標の推移・評価																			
ÿ	舌動指揮	票 1	(「手段」をもとに	:設定)	指標名:事業参加	加人数		指標の求め方:事業参加人数												
J.	成果指標1(「成果」をもとに設定)				指標名:事業目標	標の達成度		指標の求め方:参	₿加者アンケート	で事業目的が達成	されたと回答した	た人の割合								
				第1次実施3カ年計画			第2次実施3カ年計画						第 7 期							
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合計画合計			
	ŧ		舌動指標 1 (単位/人)	計画値実績値	<u>40</u>	81	40 70	<b>-</b>	40 58	40	40		40	40	40	40				
	ŧ	)-	成果指標 1	計画値	100		<b></b>		100	L	100		100	100	100	100				
	Æ	_	(単位/%) 事業の達成度	実績値	_	97	91		95											
		(	声楽の達成度 活動指標をもと 事業の成果	とに評価)				達成されている												
		(	成果指標をもと	とに評価)				少し上がっている												
		(	事業の効率性 事業費に対する	5成果)				変わらない												
		ŕ	総合評価		. =			良好である			. =									
	事務事業評価	h 与	総 理 の る 自 己 よ う こ れ 実 己 た う も う も う も う も う も う も う も う も う も う		か連てを会る高きて新型 大と会し開でがうし口 を会演査のにおく のに が のに が のに が のに が のに が のに が のに が のに が のに が のに が のに が のに が のに のに が のに のに が のに のに のに のに のに のに のに のに のに のに	開者は大きな、   一般では、   一般で	指も大成値成コに社しいたを、画達 響の滞高いたを、画達 響の滞高	よたがナの関かき果しらき様社に能更知期、福健心らく指て、が仕会関の単年を開発を持ちまた。 大学 は、一次のは、一次のは、一次のは、一次のは、一次のは、一次のは、一次のは、一次の	参し値果を参は高持く複へめ生識機提加たを指概加高齢やり雑対、活をづ供加たを指標和者が者生、化応高に習ける場所が、適したのである者のである者のである者のである者である者になる会とのし計成満に健い化社たで実知事をが、過し足。といれたを会となる者とする会とない。		自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:			
		4	今後の方向性					現状のまま継続												
					R5 :				R8 :				R10 :				II .			
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			がる学習機会の確 しつつ、学習ニー る。																